

みの〜れで見つけた自分の将来の道



舞台技術者／みの〜れ住民劇団Myu OB

ほそ や とし き
細谷 聡 希 さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.208

みの〜れ開館前に行われた内部見学会に参加し、まだ電気がつかない暗い中を歩いたり、舞台照明のカラーフィルターに名前を書いて差し込んでとても嬉しかったのが原体験。23年後の今、舞台技術のプロとして充実した日々を送る、羽鳥地区出身で現在は埼玉県川越市在住の細谷聡希さんにインタビューします。

願いが叶って 舞台技術者に

幼稚園児の時、舞台のことなど何も分からないまま飛び込んだ演劇ファミリーMyu。みの〜れこけら落とし住民ミュージカル「田んぼの神様」に出演し、中学2年生までキャストとして活動。中学生になってから、大人のスタッフと一緒に稽古準備するのが楽しいと思うようになり、中学3年生からスタッフへ転向。音出しの手伝いや、舞台袖で舞台進行を務めるようになりました。

興味があった舞台音響を学べる大学に進学したものの、徐々に舞台監督に興味に移り、大学時代はあちこちの舞台現場でスタッフを務めて経験を積みました。

大学卒業後は、バレエやダンスなどの舞台や大道具を創る会社に就職。「高校生の頃から舞台の仕事に就きたいと思っていたので、念願が叶って日々楽しいです。みの〜れで育つたこともあって、市民と近い距離で舞台を創る現場が好きですね」と語ります。

物心つかないうちから、毎週みの〜れに通うのが当たり前だったという細谷さん。

会った人たちのおかげで、自分が将来進みたい道が見つけられました。この業界に進みたい子がいたら、やってみたらと勧めます。舞台に限らず、自分が興味のあることに挑戦するのが一番だと思います」と細谷さん。

茨城県高校演劇祭の仕事で、約10年ぶりにみの〜れに舞台スタッフとして関わった細谷さんは、みの〜れ舞台技術管理マネージャーの阿部喜一さんと仕事の話ができるようになって「感慨深いものがありました」。楽屋通路の匂いが懐かしく感じたそうです。

高校時代から、みの〜れだけでなくアピオスにも手伝いに行くようになりました。舞台を仕込む時間が一番好きで、「舞台美術や大道具で舞台が飾られていくワクワク感がたまらないですよね」と懐かしそうに話してくれました。

「Myuの本番が終わって週末にみの〜れに行かなくなると、何か調子が狂うというか、物足りなさを感じてました。1年の半分以上はみの〜れに通い詰めたからね」と笑います。「みの〜れで出

みの〜れと共に成長した子どもたちが大人になり、自分の道を歩んでいます。Myuの活動を通して自己効力感を高め、大人たちのサポートによって自分の道を切り拓く力が備わるのでしよう。これからも応援しています。

(藤田佐知子)